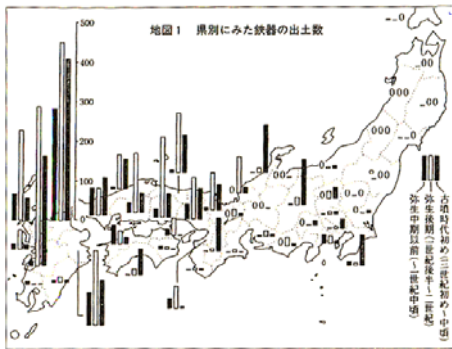
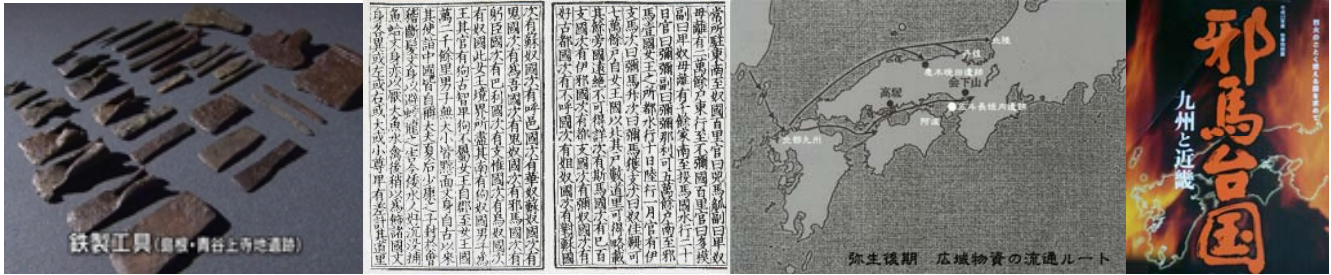


南北市糴(してき) 朝鮮半島と倭を結ぶ「和鉄(てつ)の道」

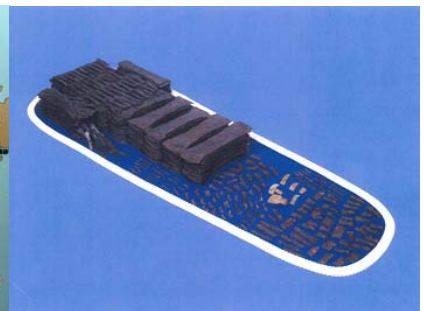
魏志倭人伝の時代 朝鮮半島の鉄との交易品は何か……

2011.8.25. by Mutsu Nakanishi



魏志を読むと「**国出鉄、韓、濊、倭皆從取之**」という記事と一緒に倭人伝 壱岐・対馬の記事の中に「**南北市糴**」という言葉がでてくる。「**糴**」を何と読むのか不思議で 読めなかった漢字。「テキ」と読み、「米を買い入れる」ということから「交易」を意味するという。弥生の末期 北部九州諸国に独占されていた鉄器の集積が、山陰日本海沿岸諸国(麦木晩田 青谷上寺地 丹後 北陸)から畿内へと広がってくる時代である。

昨今の纏向遺跡の発掘などによって 邪馬台国大和説が大きくクローズアップされ、「古代国家形成に至る黎明 邪馬台国・魏志倭人伝の時代 卑弥呼の邪馬台国連合を結びつけていたのは朝鮮半島の鉄の流通路を安定確保する支配力」として朝鮮半島と日本列島を結ぶ 和鉄(てつ)の道が大きく注目されるようになった。



紀元前3世紀 大陸や朝鮮半島から 新しい技術や人々の渡来があつて 集落から地域集団そして国へと日本の国づくりが大きく展開されてゆく時代である。 豊かさを求め、群雄割拠・連合の戦乱の中で、「鉄」は農耕・国土開拓にとって必須で、朝鮮半島の鉄入手を求めた。

この和鉄の道で倭の国々は「朝鮮半島の鉄器素材と何を交換したのだろうか？」

また 遠く離れた列島諸国とこの朝鮮半島との鉄の道の交易 海の道を渡ったのは誰か ??

翡翠・水晶などの宝石鉱物・銅・貝類などの加工品(威信財・装身具・祭祀具) 織布(麻・錦) 海産物 穀物 木材 等々 数々の説が発表され、最近読んだ本には「硫黄」や「塩」を倭側交易品と考えている人もいます。

今まで 数多くの研究が発表されているが、いまだ確論がない。

日本での製鉄が始まりを解く謎のひとつであり、邪馬台国から大和王権の成立へ 古代国家の成り立ちを解く謎として多くの人たちのロマンを掻き立ててきた謎のひとつであり、私にとっても いつも不思議に思いながら解けぬ謎。

つい 先日も 知人から「『朝鮮半島の鉄 朝鮮半島の鉄』と言うが、その日本側の交易品はなになのか?」と問われ、自分でもややもやしていますので、よい機会 資料を調べ直し始めました。まだ、結論は出ていませんが、この朝鮮半島の鉄を巡る諸国の交易品について、まとめてみました。



韓国の鉄錠

日本の鉄錠

この時代の朝鮮半島と大和との交流を知る手掛かりは 中國の魏書に書かれた朝鮮半島並びに日本列島諸国の記事と発掘調査によって年々明らかになってきた事実をあわせ考えることである。

■ 魏書によると まだ製鉄技術のなかった倭国の諸国は朝鮮半島の鉄を求め、活発に交流し、勢力を伸ばした邪馬台国は北部九州から朝鮮半島に至る出発港である伊都国に「一大卒」を置いて、朝鮮半島と行き来する物品・人を監視していたという。

■ また、この時代 農耕が乏しい壱岐・対馬には 航海術にたけた「海人」族の勢力があり、積極的に朝鮮半島と北部九

州や日本列島諸国との間を自由に行き来し、「南北市糴」中継貿易を行っていたという。

■ そして、朝鮮半島・日本で広く現れたバチ状薄鉄板「鉄ティ」が魏書にある物品交易の貨幣の役割を担った鉄とも言われている。

朝鮮半島や日本で大量にみつかる「鉄ティ」が数多くの実用鉄器の鉄素材とは考えにくく、これが貨幣の役割を果たしていたとすると中継貿易が大いに隆盛したことがうかがえ、かつ倭諸国が直接朝鮮半島に行かずとも北部九州や壱岐・対馬で朝鮮半島の鉄が手に入れられたと考えられる。 また、この中継貿易をイメージするとその交易品も広く考えられる。

いままで、朝鮮半島の鉄について 壱岐・対馬の役割をあまりイメージしていませんでしたが、近年の発掘調査で次第に明らかになってきた壱岐・対馬の「海人」の活躍を考えねばならない。



1. 魏書に記載されている弥生時代末 3世紀頃の倭と朝鮮半島の交流

1.1. 魏書(286)に書かれた鉄関連記事

■ 「魏誌 東夷伝・弁辰条」

国出鉄、韓、濊、倭皆從取之。諸市買皆用鉄、如中國用貨、又以供給二郡。

国、鉄を出す。韓、濊、倭 皆從がいて之を取る。貨幣がわりにも鉄を用いる、また以て二郡に供給す

■ 「魏誌倭人伝」

自女王國以北、特置一大率、檢察諸國、諸國畏憚之。常治伊都國、於國中有如刺史。

王遣使詣京都、帶方郡、諸韓國、及郡使倭國、皆臨津搜露、傳送文書賜遺之物詣女王、不得差錯。

女王国の北方の諸国には「一大率」という官が置かれて国々を監視している。

一大率は伊都国にあり、魏の刺史のような役目を果たしている。

伊都国は外交の中心地で魏や韓の国々の使節はここに停泊して文書や贈物の点検を受けて女王に送っている。

1.2. 「魏志倭人伝」に描かれた倭国 壱岐・対馬・伊都国

< 倭 国 >

「倭人在帶方東南大海之中依山島爲國邑舊百餘國 漢時有朝見者今使譯所通三十國

從郡至倭循海岸水行歷韓國乍南乍東到其北岸 狗邪韓國七千餘里」

倭人は帶方（今のソウル付近）の東南大海の中にあり、山島に依りて国邑をなす。旧（もと）百余国。

漢の時朝見する者あり、今、使訳通ずる所三十国

郡（帶方郡）より倭に至るには、海岸に循（したが）って水行し、韓国（主に馬韓）を歴（へ）て、

乍（あるい）は南し乍（あるい）は東し、その北岸狗邪韓国（くやかんこく）に到る七千余里。

＜ 対 馬 ＞

「 始度一海千餘里至對海國 其大官曰卑狗副曰卑奴母離 所居絶島方可四百餘里
土地山險多深林道路如禽鹿徑 有千餘戸無良田食海物自活乗船南北市糴 」

始めて一海を渡る千余里、対海国（対馬）に至る。其の大官を卑狗といい、副を卑奴母離（ひなもり）という。
居所絶島、方四百余里ばかり。土地は山険しく、深林多く、道路は禽鹿の径の如し。
千余戸あり。良田なく、海物を食して自活し、船に乗りて南北に市糴（してき）す。

＜ 壱 岐 ＞

「 又南渡一海千餘名曰瀚海至一大國 官亦曰卑狗副曰卑奴母離 方可三百里
多竹木叢林有三千許 家差有田地耕田猶不足食亦南北市糴 」

また南一海を渡る千余里、名づけて瀚海（かんかい）という。一大国（壱岐）に至る。官をまた卑狗
といい、副を卑奴母離という。方三百里ばかり。竹木・叢林多く、三千ばかりの家あり。やや田地あり、
田を耕せどもなお食するに足らず、また南北に市糴す。

＜ 伊 都 ＞

「 東南陸行五百里到伊都國官曰爾支副曰泄謨觚柄渠觚 有千餘戸 世有王皆統屬女王國郡使往來常所駐 」

東南陸行五百里にして、伊都国に到る。官を爾支といい、副を泄謨觚・柄渠觚という。千余戸あり。世々王あるも、
皆女王国に統属す。郡使の往来常に駐（とど）まる所なり。

＜邪馬台国への道程＞

「 東南至奴國百里官曰馬觚副曰卑奴母離有二萬餘戸
東行至不彌國百里官曰多模副曰卑奴母離有千餘家
南至投馬國水行二十日官曰彌彌副曰彌彌那利可五萬餘戸
南至邪馬臺國女王之所都水行十日陸行一月 官有伊支馬
次日彌馬升次日彌馬獲支次日奴佳可七萬餘戸 」

東南奴国に至る百里。官を馬觚といい、副を卑奴母離という。二万余戸あり。

東行不弥国に至る百里。官を多模といい、副を卑奴母離という。千余家あり。

南、投馬国に至る水行二十日。官を弥弥といい、副を弥弥那利という。五万余戸ばかり。

南、邪馬臺国に至る、女王の都する所、水行十日陸行一月。官に伊支馬あり、次を弥馬升といい、
次を弥馬獲支といい、次を奴佳タイという。七万余戸ばかり。

2. 南北市糴（してき） 朝鮮半島との中継貿易を担った壱岐の王都 原の辻遺跡



壱岐 原の辻遺跡



原の辻遺跡から出土した外洋につながる船着き場

北部九州と朝鮮半島の間にある対馬・壱岐について、魏志倭人伝は 「山ばかりで農
耕ができない島で、人々は南北に「市糴」して暮らしている」と書かれている。

「良田なく、海物を食して自活し、船に乗りて南北に市糴（してき）」した対馬
「やや田地あり、田を耕せどもなお食するに足らず、また南北に市糴」した壱岐

「市糴（してき）」とは何か・・・ おぼろげには「交易」と思いながら、調べた
ことなく、魏志倭人に接するたびに気になっていた言葉である。

市糴とは「米を買うこと」これが交易を表す熟語となったもので、対馬・壱岐が市糴

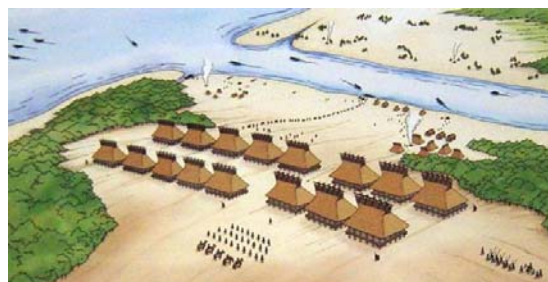


した南は日本列島、北は朝鮮半島にほかならない。玄界灘に浮かぶ壱岐・対馬は古くから朝鮮半島や日本列島を行き来する「海人」の人々の本拠地であり、自給自足のできない対馬・壱岐では、南北に市糴（交易）することが当然の道。航海術にたけ、朝鮮半島の事情をよく知るこの人たちが魏志倭人伝に描かれた朝鮮半島との交流の道を握っていたと考えられる。また、弥生時代の後期から古墳時代 交易拠点・港には建ち並んだ大型穀物倉庫群遺構が出する。

○福岡比恵遺跡倉庫群・吉野ヶ里遺跡高床式倉庫群・紀ノ川 鳴滝倉庫群・大阪法円坂倉庫群 など

これは 穀類が主要な交易品であることを示しており、交易のベース商品として朝鮮半島の鉄 日本諸国の穀類の仲介であつた証拠かもしれない。また、海産物なども同じ性格をもっていたのだろう。

これら穀物や海産物の現物は見つからぬが、壱岐・対馬そして 北部九州側の拠点伊都国や、4世紀伊都国にとって代わり、大和と深い関係を持つ新たな貿易港となった博多湾の拠点(博多西新町遺跡など)には日本各地の物産や交易品を入れていたと考えられる日本各地の土器や朝鮮半島の土器類が多数見つかっている。



紀ノ川河口 鳴滝倉庫群 イメージ図



魏志倭人伝に記された一大国の王都を復元した 壱岐 原の辻遺跡

原の辻遺跡は、弥生時代を中心とする大規模な多重環濠集落であり、中国の歴史書『魏志倭人伝』記載の「一支国(いきこく)」の王都として特定された極めて重要な遺跡である。

遺跡は、平野に張り出した台地と低地一帯に立地し、100haほどの範囲が推定される。環濠内と低地には居住域が広がり、台地中央

の頂部に高床建物をもつ祭儀場跡が存在する。6箇所ある墓域では、石棺墓・土壌墓(どこうぼ)を主体として、中国鏡・銅剣・腕輪の青銅器、ガラス玉・勾玉(まがたま)などが副葬された有力者の墓も認められる。台地西側の低地では、これまでに確認されている中では東アジア最古の船着き場跡が発見され、中国や朝鮮半島へ渡り、交易をおこなっていた海洋民の姿を今に伝える。また、周辺の低地では稲作を行っていたことが確認されつつある。

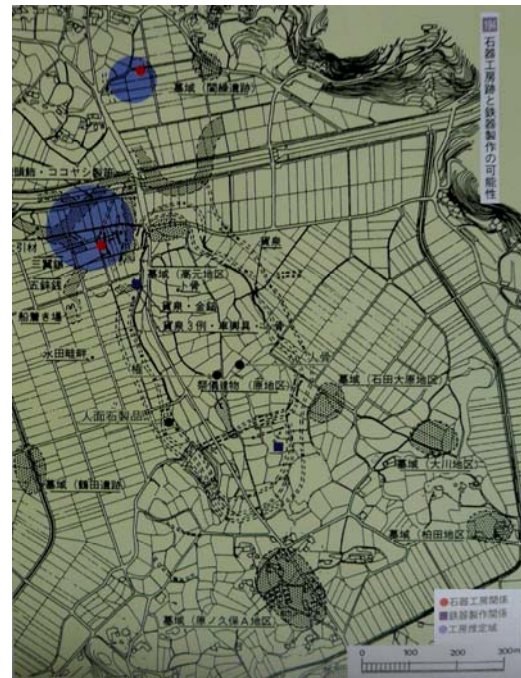
遺物は、青銅製馬車具、三翼鏃(さんよくぞく)、中国貨幣(五銖銭(ごしゅせん)・貨泉(かせん)・大泉五



十(たいせんごじゅう))、鉄器、朝鮮半島系土器、床大引き材、ココヤシ製笛など、大陸との交流・交易を物語る遺物が多く出土している。指定面積は、184,400.23㎡(H21.12追加指定分1,741㎡を含む)。

集落形成は、弥生時代前期末に始まり、中期前半に多重の環濠を掘削して大集落となり、後期には環濠が再掘削されましたが、古墳時代前期に環濠は埋没して集落は衰退した。環濠内側では掘立柱建物群・住居域・土坑(どこう)群・墓域などが、環濠外側では墓域・船着場状遺構・水田遺構・通路状遺構などが検出され、北部九州地方を中心として近畿地方、さらには、大陸・朝鮮半島にいたる地域からの多量の搬入品が出土しており、海を介した広域交流が行われた交易拠点であったと考えられている。

また、原の辻には 海からの陸揚げ船着き場・市場とともに、石器→鉄器の工房があり、変化する国際情勢に対処して中継貿易の機能を維持が図られていた。(環濠・船着場整備・工具の製作修理など)



南北市羅(してき)原の辻遺跡 市場推定位置
原の辻遺跡ノ北部 外洋につながる川の船着き場に接する
朝鮮半島の遺物が数多く出土している

原の辻遺跡の生産工房跡
各種石器製作から鉄器製作へ



半島・中国・日本各地との交流を示す大量の出土品原の辻遺跡の出土品
朝鮮半島・日本各地の土器・石製品・銅製品・鉄製品・中国の銅貨・鏡・玉類・
紡錘車そして穀物類等々

3. 魏志倭人伝に見る 邪馬台国から魏への貢納品 白珠・青珠・倭錦・丹など

魏志倭人伝によると 魏と倭との交流の中 倭が魏に朝貢した時の物品が記載されている。

生口、布きれ(倭錦・絳青兼・絳衣・帛布・雑錦など)、丹、弓矢、珠などが運ばれ、

倭には印綬、銅鏡、刀、金、真珠、鉛丹、黄ドウ(黄色の旗) 布きれなどを授けられたと記されている。

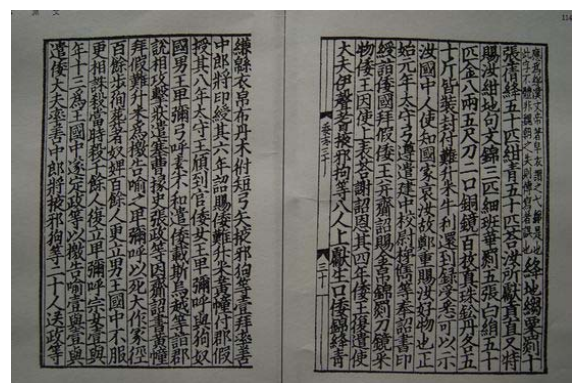
このことから 倭から運ばれた「布きれ、丹、弓矢、珠」などは貴重な日本の特産物であり、朝鮮半島との交易にも重要な産品であったに違いない。

■ 其四年倭王復遣使大夫伊聲耆掖邪狗等八人 上献生口倭錦絳青兼絳衣帛布丹木付短弓矢 掖邪狗等壹拜率善中郎将印綬

正始四年(西暦二四三年)、倭王は再び大夫伊声耆(崇神天皇皇子、伊邪眞若命か)、掖邪狗等八人を派遣して、生口、倭錦、絳青兼、絳衣、帛布、丹、木付、短弓、矢を貢献してきました。掖邪狗らには等しく率善中郎将の印綬を授けました。

■ 政等以檄告喻壹与 壹与遣倭大夫率善中郎将掖邪狗等二十人送政等還因詣臺献上男女生口三十人 貢白珠五千孔青大句珠二枚異文雜錦二十匹

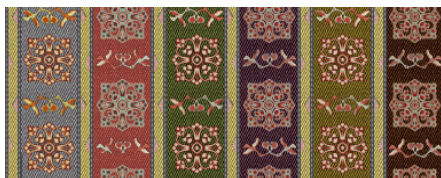
政等を派遣して、倭女王台与に貢献するように告げました。倭女王台与は、大夫率善中郎将の掖邪狗等二十人に命じて政等の帰還に随行させました。掖邪狗等は、皇帝のいる都にも立ち寄り、男女生口三十人を献上し、白珠五千個、青大句珠(穴の開いたヒスイの大玉)二枚、異文雑錦(錦に似た織物)二十匹を献上しました。



このうち「丹」は辰砂「珠」は白珠が真珠 青珠が翡翠と推察され、様々な装身具・祭祀具・威信財に加工されていただろう。

これらは 山陰日本海沿岸や四国阿波などの諸国がそれら名産品の主要産地で 数多くの生産工房が営まれ、加工具として鉄が必須であった地であり、この時代に新たに鉄の集積が大きく伸びた地と重なっている。

また、布きれと記した「雑錦・倭錦・絳青兼・絳衣・帛布」は養蚕を紡いだ絹織物とみられ、中国から伝わった養蚕技術が、倭国の独自技術へと進化してゆく過程の中にあり、貴重品として中国へ逆に貢納されたと推定される。



倭錦(復元)



真珠(白珠) 表示は後世のもの 青珠(翡翠・碧玉の勾玉)



丹

4. 朝鮮半島の鉄入手のための倭側の交易品の検討

4.1. 邪馬台国から魏への貢納品でもあった 白珠・青珠・倭錦・丹

● 白珠・青珠などの玉類

朝鮮半島での玉類の出土を調べた当初 そのほとんどが翡翠を原石とする5世紀以降の勾玉で、魏志倭人伝の時代とは年代が異なるのでびっくりしました。

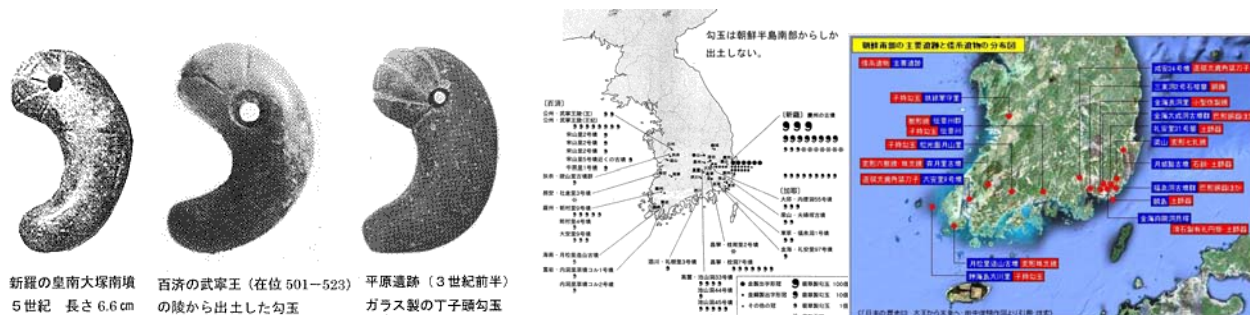
3、4世紀の朝鮮半島から出土した勾玉がないかと調べるうちに 1992年に京都国立博物館で開催された「よみがえる古代王国伽耶文化展」の図録に金海大成洞古墳群から出土した3・4世紀の玉類や琥珀製勾玉が掲載されているのをみつけました。

材質はよく判りませんが、図版から見ると碧玉と思えるものや水晶・琥珀(図番81-85)が掲載されていました。

この当時「出雲や北陸の玉造工房では翡翠のほか碧玉 丹後では水晶」の原石から玉類が製作されており、詳細確認できていませんが、朝鮮半島の南岸 鉄の集散地金海での出土であり、倭から持ち込まれた可能性があると推定しています。

勿論、山陰海岸や北陸で作られた珠が朝鮮半島に渡らずに、中継貿易の中で日本国内の各地に運ばれて消費された可能性もないとはいえませんが……。

朝鮮半島に弥生末期でも大量の鉄素材が玉造り工房に持ち込まれ、鉄製工具として加工されて実用されているにもかかわらず、その製品が逆方向に朝鮮半島までたどれないとは思われず、翡翠の勾玉がこの時代の倭側交易品であったかどうかは別として、水晶や碧玉製の玉類が朝鮮半島の鉄素材入手に対する倭側交易品であったと推定される。



朝鮮半島で出土した勾玉出土例と主要倭系遺物出土地

(出土時期ははっきりせず、5世紀以降の大量の翡翠勾玉出土地や子持勾玉出土地をも含むと推定)



4・5世紀 金海大成洞古墳群出土玉類



5-6世紀 朝鮮半島で出土した玉類 冠垂飾り・首飾など

【参考】

1. 高久健二氏歴博シンポ「古代東アジアにおける倭と伽耶の交流」資料より「韓国の倭関係遺物 4世紀～6世紀」
- ならびに 2. 弥生末期 玉造工房の展開と同時期 鉄の集積が急伸した山陰から北陸 日本海諸国玉造工房と鉄について 資料を添付させていただきました

● 白珠「真珠」

現在対馬・壱岐がある長崎県は愛媛県に次いで全国で2位の真珠生産県で、特に対馬の中央に広がる浅茅湾では、古代より天然真珠が採取され、朝廷への献上品とされてきた真珠の名産地で、現在も、真珠養殖が盛んに行われている。3・4世紀に対馬で真珠が採取されていたかどうかはわかりませんが、日本書紀には「アワビから真珠が採取した」との記事もあり、海人族の本拠地であった壱岐・対馬で 海産物・貝類の採取とともに真珠も採取されていたと考えられ、この時代 海産物と共に真珠は壱岐・対馬の主要名産品で、鉄入手のための主要交易品と考えられる。



(なお、この時代の朝鮮半島遺跡から真珠が出土していたかどうかは調査できていない。)

正倉院御物 白珠・真珠

なお、白珠には「水晶」を含むことがあり、水晶は丹後の玉造り工房 奈具丘遺跡が主生産地である。

● 倭錦などの布

魏志倭人伝に「雑錦・倭錦・絳青兼・絳衣・帛布」などと記載された布切れは養蚕を紡いだ絹織物とみられ、紀元前2世紀頃中国もしくは朝鮮半島を通じて伝わった養蚕技術が倭国独自技術へと進化し、次第に日本の特産品になってゆく過程にあり、貴重品として中国へ逆に貢納されたと推定される。弥生時代の布は、多くは大麻を原料とする麻布であるが、絹織物も早くから織られていたといわれる。弥生時代前半期と後半期とでは様子が異なる。前半期の絹織物は、糸の分析によれば蚕が四眠蚕で中国



の河南系、後半期のものは、三眠蚕山河北系・楽浪系である。

絹織物の種類も多く、吉野ヶ里遺跡では一般的な目の詰まった平絹・すきめ織りの平絹・ねじり織りの薄絹や糸を茜や、貝紫で染めた錦様の織物もあり、4世紀には養蚕を含めて、広く国内産が流通するようになったといわれる。



貝紫で染色した布・糸 朱の付着がみられるすきめ織り 縫い目の残る絹織物

吉野ヶ里遺跡で見つかった絹 弥生時代中期 図録「弥生時代の吉野ヶ里」より

金海大成洞古墳群出土の紡錘車

絹などの織布は魏志倭人伝の時代においても きわめて貴重品であり、中国や周辺諸国それぞれの特産品であったろう。従って 倭錦・綾など布が邪馬台国から魏への貢納品として贈られたと同様に、朝鮮半島諸国にとっても日本の特産品であり、中継貿易を担った壹岐原の辻遺跡や対岸の金海大成洞古墳からも紡錘車が出土し、倭錦などの布が倭側の重要な交易品であったと考える。

● 丹・辰砂



辰砂は、不透明な赤褐色の塊状、あるいは透明感のある深紅色の鉱石として産出し、練丹術などでの水銀の精製の他に、古来より高貴な色・呪術的な意味を付与された色としての赤色（朱色）の顔料や漢方薬の原料（不老長寿の妙薬）として珍重されている。 魏志倭人伝の邪馬台国にも「其山 丹有」と記述されている。

弥生時代代 古墳の内壁や石棺の彩色や壁画に使用されていた。漢方薬や漆器に施す朱塗や赤色の墨である朱墨の原料としても用いられ、古くは吉野川上流や伊勢国丹生（現在の三重県多気町）などが特産地として知られた。

弥生の末期この「丹」の生産工房があった阿波国矢野遺跡ではこの辰砂を砕き加工精製するのに鉄工具が使われるようになり、数多くの鍛冶工房や玉造り工房が同時に営まれていた。

朝鮮半島諸国もこの「丹」を珍重していたと推察すると、中国へ卑弥呼が貢納したことを考えるとやはり「玉類」と同様にこの阿波ほかの「丹」が朝鮮半島との交易の日本側の交易品となった可能性があるだろう。



名東遺跡出土の水銀朱精製石杵



辰砂の鉱石



若杉山遺跡出土品



朱の精製・生産ジオラマ

辰砂の産地 四国阿波の朱生産工房 若杉山遺跡



四国阿波の鍛冶工房 矢野遺跡周辺で出土した鉄器・鉄素材

弥生の末期 四国阿波の鍛冶工房・朱の生産工房の出土品例

4.2. そのほかの日本側交易品の候補

● 材木 高貴な木材 高野槇



高野槇

● ゴボウラ・夜光貝などの南海の貝類 装身具・宝石



吉野ヶ里遺跡出土のゴボウラやイモガイの腕輪

日本では弥生時代から古墳時代にかけて、防腐効果のあるコウヤマキが木棺材として用いられていた。

この日本特産のコウヤマキが百済 武寧王陵(6世紀)の木棺材にも使われている。

当時の百済が王族の木棺をつくるために、常時コウヤマキ材を入手・管理していた可能性が考えられ、武寧王以前にもすでにコウヤマキが交易されていた可能性があるといわれるが、その信憑性は確認できていない。

また、ゴウホラ・夜光貝など南海の貝の美しさに魅せられ、弥生時代日本では広く流通。

● 穀物類 海産物

壱岐・対馬には農耕ができず、南北市糴(してき) 市を開き、自由に朝鮮半島 日本諸国を行き来して、交易で生計を立てていたという。この「糴」には「米を買い入れる」という意味があり、穀類や海産物がこの鉄の道での重要な交易品であったとも考えられる。

朝鮮半島の南岸並びに北部九州の沿岸拠点(湊)や壱岐では、高床式の穀物倉庫群が建ち並び、日本各地の土器や半島の土器が多数出土する。そして、この時代 朝鮮半島もまた戦乱の時代である。

この大量に海峡を行き来する土器 海を渡った交易品の容器であったとも考えられ、倭・朝鮮半島両国の穀類・海産物などが、相互に海を渡った可能性は否定できないと思う。

少なくとも 壱岐・対馬には穀類・海産物が交易を通じて集まったのではないだろうか…。

朝鮮半島出土弥生系土器から復元する日韓交渉

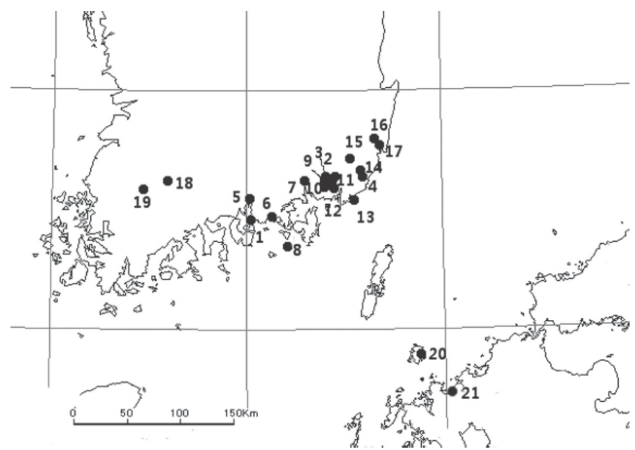
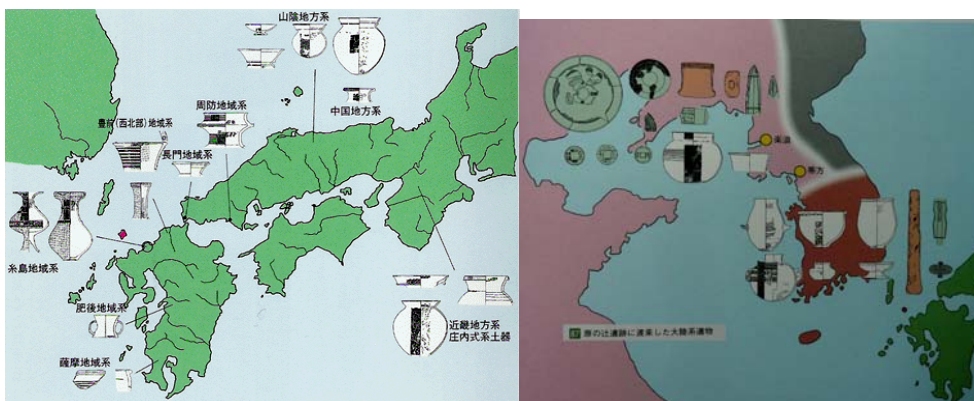


図1 朝鮮半島弥生系土器出土主要遺跡分布図

朝鮮半島出土の倭系土器



壱岐・原の辻遺跡から出土した朝鮮半島並びに日本各地の土器

5. 魏志倭人伝の時代 朝鮮半島の鉄と交換した日本側の交易品の整理まとめ

穀類・海産物・絹布・白珠・青珠・勾玉・朱・木材などが 日本側交易品ではないか

朝鮮半島への交易品の記載を示す古文書は見つかりませんが、魏志倭人伝には中国との交流に邪馬台国が貢納した品物の記載 並びに 倭国と朝鮮半島の交流の様子の記載があり、これは重要な手がかり。

これらと当時の鉄の集積や日本特産品並びに朝鮮半島・日本側の湊拠点の発掘調査レビューと照らし合わせながら日本側の交易品の可能性を調べた。

その結果 ダイレクトに日本側交易品を示すことはできなかったが、日本側の交易候補品そして朝鮮半島の鉄入手交易の様子がおぼろげながら整理できた。

その結果をまとめると下記のとおりである。

1. 邪馬台国から魏への貢納品でもあった 白珠・青珠・倭錦・丹などが記載され、当時これらが日本の貴重な特産品だったと考えられる。
2. 朝鮮半島と北部九州の間にある壱岐・対馬は 魏志倭人伝に記載する通り、交易・航海術にたけた海人族の国で、そこには朝鮮半島・日本各地の物産が集まる市場があり、日本各地・朝鮮半島と活発な中継貿易を行っていたことが、膨大な出土遺物からわかる。
3. この中継貿易を円滑・活性化する貨幣の役割を 鉄ティが担っていた可能性が想定できる。
この広汎活発な中継貿易により、鉄を入手するためには必ずしも朝鮮半島に直接行って交易する必要はなく、北部九州・壱岐・対馬・朝鮮半島などの貿易拠点で交易が可能で、鉄の入手がはるかに容易になっていったと考えられ、国内向けであった各地の特産品・穀物・海産物などがそれぞれ、重要な交易品になりえたと考えられる。
4. 日本各地の特産品の生産工房の展開が鉄製工具を要求し、玉加工や朱などの生産工房の展開と鉄の集積とが密接につながって 相互展開している。
5. 朝鮮半島の南岸並びに北部九州の沿岸拠点(港)や壱岐には日本各地の土器や半島の土器が多数出土する。
これは この土器に入れられ海を渡った交易品の容器と考えられないか
魏志倭人伝の記事と合わせると 穀類・海産物などが、海を渡った可能性は否定できない。

これらの結果をもとに 朝鮮半島の鉄入手と交換された倭側の交易品を考えると、魏志倭人伝に記載された「絹布・白珠・青珠・勾玉・朱」や「穀類・海産物」そして、木材や南海の貝類などが日本側交易品の候補ではないかと。

また、壱岐・対馬が海人族の拠点であることは知っていましたが、半島の鉄入手にこの壱岐・対馬が中継貿易の担い手として きわめて大きな役割を演じていたと気づきました。

同時に この時期 朝鮮半島から大量に持ち込まれた薄鉄材「鉄ティ」の性格がよく判らなかったのですが、中継貿易の繁栄の中、魏志倭人伝の記載にある「鉄が貨幣の役割」と考えるとこの鉄ティの性格が見えてきたように思っています。

これら すべて 確証はありませんが、朝鮮半島と日本をつなぐ「和鉄の道」を往来した交易品が見え、今後の検討のなかで、もっとクリアーにできればと思っています。

【 整理に使った資料ほか 整理とともに掲載図面につかわせていただきました 】

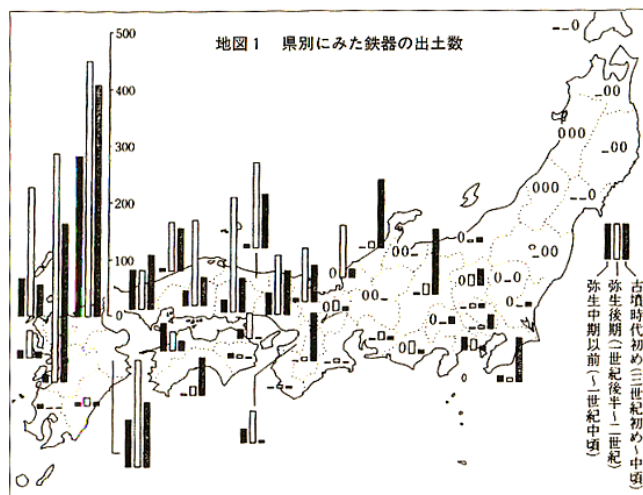
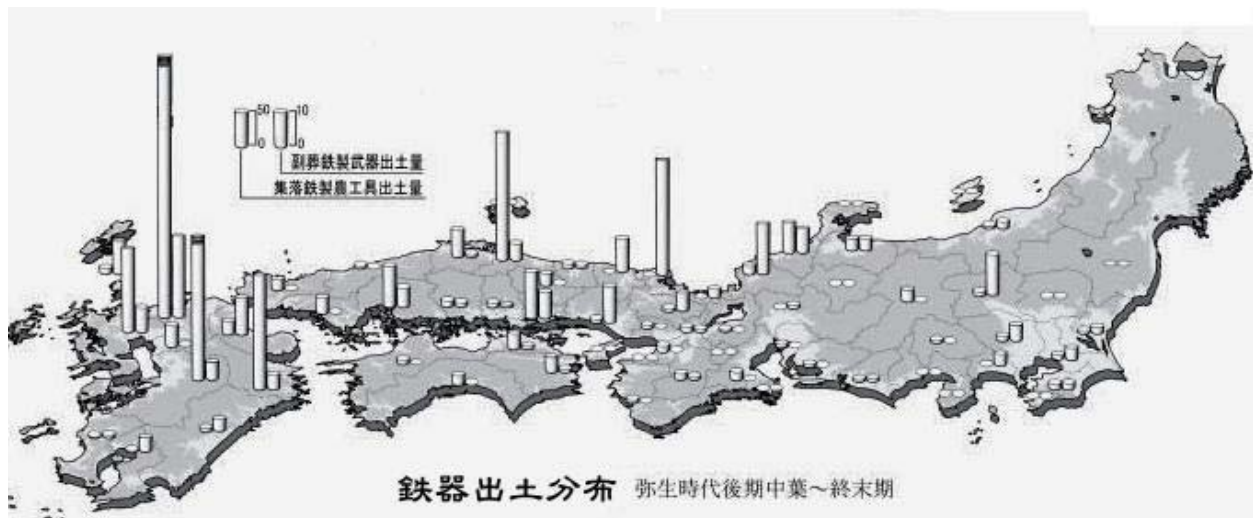
1. 第五回歴博国際シンポ 「古代東アジアにおける倭と伽耶の交流」論文集 2002. 3. 13. -3. 16.
 2. 大阪弥生文化博物館 発掘「倭人伝」海の王都、壱岐・原の辻遺跡展図録 2002
 3. 京都国立博物館「伽耶文化展」図録 1992
 4. 大阪弥生文化博物館 特別展「北陸の玉と鉄 弥生王権の光と影」図録 2005. 10.
 5. 大阪弥生文化博物館 渡来人登場展 図録 1999. 4.
 6. 近つ飛鳥博物館 鉄とヤマト王権展 図録 2012. 10.
 7. 京都国立博物館 倭国 邪馬台国と大和王権展 図録 1993. 3.
 8. 石田あゆみ 朝鮮半島出土弥生系土器より復元する日韓交渉
 9. 弥生時代の初期鉄器の船載時期とその流通構造の解明 (H17-19 科研費基盤研究報告書 代表 野島永
- インターネット検索 朝鮮半島の鉄 交易品 魏志倭人伝 等 検索より

参考 1. 日本海沿岸諸国(山陰から北陸へ) 玉造工房と鉄

弥生末期 玉造工房の展開と同時期に鉄の集積が急伸した山陰から北陸 日本海諸国玉造工房と鉄



第3図 島根県平所遺跡出土
水晶薬玉破損品



● 北陸の玉造工房



北陸の玉造・鍛冶工房（1）



北陸の玉造・鍛冶工房（2）

丹後の玉作り

水晶・ガラスを主な素材とした玉造りと鍛冶工房 丹後半島 奈具丘遺跡・遠所遺跡ほか



216 ガラス玉作りに伴うガラス破片とガラス滓
上左・長1.1cm/弥栄町 奈良岡遺跡/弥生中期後半



222 鉄斧などの鉄製品と加工前の鉄素材
上右・長5.6cm／弥栄町 奈良岡遺跡／
弥生中期後半

丹後の国の玉造工房 玉類 水晶・ガラスを主な素材とした玉造り

● 出雲の玉造工房



古墳時代前期の勾玉と管玉碧玉、
メノウで作られた玉類
松江市上野1号古墳

出雲の玉作りは、弥生時代前期に始まり、古墳時代後期まで一貫して継続する。

弥生時代 規格性のある朝鮮半島産の碧玉製玉類が大量に持ち込まれ、その影響により、列島の各地域に玉作りが拡散し、山陰でも管玉製作が始まる。

そして、弥生時代から古墳時代へと移行する中、北陸で管玉製作が拡大し、腕飾類など石製品の生産が開始、全国的に流通する。山陰では玉作り集落が出雲に集約し、古墳時代前期には花仙山産の碧玉・瑪瑙・水晶を素材とした勾玉生産が開始され、古墳時代中期以降、出雲の玉はそれまでの北陸の玉と入れ替わるように列島の各地域に流通。

(島根県立古代出雲歴史博物館 ホームページより)

この時期 朝鮮半島の鉄器素材を集積し、交易する麦木晩田遺跡や青谷上寺地遺跡などの交易集落が現れ、山陰でも鉄器が供給されるようになり、出雲の玉造工房が展開される過程で、玉造の加工工具が硬い原石の細密加工ができる鉄器へと急速に代替されてゆく。

出雲の玉造遺跡は、松江市玉湯町を中心に現在約100遺跡が知られており、弥生時代前期から平安時代にかけて、盛んに玉造が行われた。特に青メノウ(碧玉)は出雲石と呼ばれ、出雲しか産出しないという。

特に宍道湖の南岸に位置し、旧玉湯町と松江市にまたがる花仙山の山麓には 50 力所近い玉作りの集落があり、出雲地方の玉作り遺跡の大半がここに集中。花仙山周辺の多数の玉作り遺跡のうち、「出雲玉作跡」として 3ヶ所が国史跡に指定されている。

弥生時代後期 山陰の鉄

	刀剣	鏡	工具	農具	貨幣	他	小計	不明	総数	備考
福 岡	83	388	500	258	213	61	1603	243	1746	
鹿 木	17	377	189	158	45	37	823	1068	1891	
佐 賀	26	47	91	85	69	19	337	28	365	
高 松	3	32	66	13	17	82	203	20	223	
鳥 取	26	67	224	34	76	88	615	149	934	上野産270
岡 山	13	120	105	18	17	18	291	144	435	うち94点は県北部
兵庫北部	18	60	72	0	7	15	162	7	169	
兵庫南部	11	30	22	0	6	20	89	22	111	
京都北部	49	103	53	1	1	10	217	17	234	
京都南部	1	6	9	3	2	9	30	4	34	
大 阪	3	32	19	3	14	16	87	66	153	

弥生後期の鉄器出土数
《藤田意司「見えざる鉄器」『究証』Ⅱ 2002年9月を一部改定》



麦木晩田古墳

青谷上寺地遺跡



松江市玉湯町 花仙山の西南の麓、玉湯川右岸の緩斜面に古墳時代前期から平安時代にかかる 30 棟近い玉作り工房が発見され、その中から、玉の原石、管玉・勾玉・丸玉などの半製品、玉磨き砥石、穿孔用の鉄製ドリルなど数万点の玉作りに関する資料が見つかった。(宮垣地区)

また、宮垣地区から約 500mほど南側、玉湯川の右岸にある宮ノ上地区は花仙山周辺の玉作り遺跡では、最古弥生時代終末期の玉作り工房跡である。

松江市玉湯町 出雲玉作跡

(宮垣地区・上宮地区・玉ノ宮地区)

参考2. 高久健二氏「韓国の倭関係遺物 4世紀～6世紀」

歴博シンポ「古代東アジアにおける倭と伽耶の交流」資料より

第5回歴博国際シンポ「古代東アジアにおける倭と伽耶の交流」2002.3.13.-3.16.

高久健二「韓国の倭系遺物 -4世紀～6世紀-」より

表1 韓国の倭関係遺物（4～6世紀）

遺跡名	倭関係遺物	遺構種類	共伴遺物	遺構時期
忠北清州市 新鳳洞90A-32号墳	須恵器杯身1	土壇墓	瓦質平底壺	5世紀後半
忠北清州市 新鳳洞90B-1号墳	須恵器（杯身4、 杯蓋2） 土師器直口壺1	木棺墓	鉄刀、鉄鏃、短甲、櫛、鏡、鉄刀子、鉄鏃、鉄斧、金銅装飾、硬質土器（壺、三足鉢、蓋杯、高杯、盃）、軟質土器（鉢）	5世紀後半
忠南公州市 武寧王陵	高野槨製木棺	埴室墓	環頭大刀、鉄矛、鉄刀子、棺釘、銅鏡、冠飾、玉類、頸飾、釧、耳飾、筭、帶金具、腰佩、飾履、飾金具、銅鉢、銅皿、銅熨斗、銅匙、銅箸、銀蓋、五銖銭、青磁、白磁、鎮墓獸、買地券	6世紀前葉
忠南扶余郡 扶余邑軍守里	滑石製子持勾玉1	不明	不明	5世紀？
忠南扶余郡 陵山里古墳群	高野槨製木棺	横穴式石室	棺金具、金銅冠金具、飾鉾など	6世紀後半～ 7世紀前半
忠南扶余郡 陵山里東古墳群	高野槨製木棺	横穴式石室	棺釘、飾鉾、座金具、玉類、金歩搖など	6世紀後半～ 7世紀前半
全北益山郡 益山大王墓	高野槨製木棺	横穴式石室	盃	7世紀前半
全北扶安郡 竹幕洞遺跡	須恵器（蓋2、無蓋高杯1、提瓶1） 石製模造品（有孔円盤141、剣形品34、鏡2、勾玉7、刀子5、短甲1、斧1、鏃1、鐙2）	祭祀遺跡		5世紀後半～ 6世紀
全南順天市 大谷里A-1号住居跡	須恵器杯身1	住居跡		5世紀後半
全南順天市 大谷里A地区表探	須恵器杯蓋1			5世紀後半
全南順天市 大谷里C地区表探	須恵器杯身1			5世紀後半
全南羅州市 大安里9号墳 庚棺	直弧文鹿角装鉄刀子1	甕棺墓	大刀、銅釧、ガラス勾玉、硬玉勾玉、ガラス管玉、ガラス白玉、金環	5世紀後半
全南羅州市 伏岩里1号墳 周溝東区	須恵器甕1	横穴式石室	石枕、有蓋小壺、小瓶、大壺、壺、大甕、甑、緑釉有台杯、蓋杯、高杯、盃、甕、鉢、紡錘車	6世紀前半
全南羅州市 伏岩里3号墳 96号石室墓	須恵器甕2	横穴式石室 （甕棺）	環頭刀、鉄大刀、鉄矛、鉄鏃、馬具類、鉄刀子、鉄鉗、金銅飾履、棺釘、蓋杯、高杯、壺、瓶、長頸壺、短頸壺	5世紀後半～ 6世紀前半
全南潭陽郡 奇月里古墳	六獣鏡1 珠文鏡1	圜石墓	鉄刀、鉄槍、櫛、鏡、瑪瑙勾玉、ガラス小玉、金銅製指輪、平底短頸壺、蓋杯	5世紀末～6 世紀前半
全南海南郡月松里 造山古墳	珠文鏡1 ゴボウラ貝釧1	横穴式石室	環頭大刀、鉄矛、鉄石突、鉄鏃、F字形鏡板付櫛、剣菱形杏葉、鏡、銅鈴、鉄斧、U字形鋤先、鍔、碧玉製管玉、ガラス小玉、ガラス切小玉、勾玉、短頸壺、長頸壺、台付短頸壺、甕、広口小壺、高杯、蓋杯、貝殻片	5世紀後葉
全南務安郡 三郷面麥浦里	須恵器甕1	不明	不明	5世紀後半
全南榮山江流域	須恵器甕1	不明	不明	5世紀後半
慶北慶州市 皇南大塚（南墳） （主槨）	仿製方格規矩鏡1 イモガイ飾金具7 イモガイ金銅円頭 鉾38	積石木槨墓	環頭大刀、鉄矛、鉄鏃、鉄刀子、脛甲、馬具類、鏡、冠帽類、玉類、耳飾、指輪、鈿帶、腰佩、飾履、金属容器、ガラス容器、漆器、硬質土器（高杯、蓋杯、広口壺、長頸壺、台付短頸壺、把手付小壺）、軟質土器（有蓋壺、有蓋小壺）	5世紀中葉
慶北慶州市 金鈴塚	珠文鏡1 イモガイ辻金具7 イモガイ雲珠1	積石木槨墓	環頭大刀、鉄鏃、鉄矛、鉄石突、鉄鏃、鉄刀子、針、有刺利器、馬具類、土製紡錘車、冠帽、玉類、耳飾、釧、帶金具、指輪、飾履、櫛、鉄鏃、青銅盒、金銅盒、金銅皿、漆器（皿、鉢、盒、高杯）、ガラス杯、硬質土器（蓋杯、高杯、把手付盃、短頸壺、長頸壺、注口壺、騎馬人物形容器、胎形容器）、軟質土器（小壺）	6世紀前半
慶北慶州市 金冠塚	イモガイ飾金具6	積石木槨墓	環頭大刀、鉄刀、鉄矛、鉄鏃、挂甲、馬具類（櫛、鞍、鏡、杏葉、馬鐙、蛇行鉄器）、鉄刀子、鉄斧、冠帽、玉類、釧、指輪、耳飾、飾履、鈿帶、腰佩、金属容器（釜、鉢、盒、高杯、四耳壺、斗、角形尊、鐎斗）、漆器、ガラス容器、硬質土器（長頸壺、短頸壺、台付把手付盃、蓋杯、有蓋高杯、横瓶）、軟質有蓋盃	5世紀後半

慶北慶州市 天馬塚	イモガイ辻金具6 イモガイ雲珠4	積石木槨墓	環頭大刀、鉄刀、鉄矛、鉄鏃、馬具類（轡、鞍、障泥、鞍褥、鐙、杏葉、馬鐸、）、鉄斧、刀子、鉄鎌、鉄鋌、鍬、釘、冠帽、耳飾、釧、指輪、玉類、鈎帶、腰佩、飾履、金属容器（釜、高杯、鼎、鐏斗、熨斗、釜）、ガラス杯、漆器、硬質土器（長頸壺、短頸壺、高杯、蓋杯、把手付小壺、横瓶）、軟質小壺	6世紀前半
慶北慶州市 皇吾里33号墳 （西槨）	イモガイ辻金具4 イモガイ雲珠3	積石木槨墓	鉄刀、鉄鏃、馬具類（轡、杏葉）、鉄斧、鉄刀子、鉄鎌、鉄鋌、有刺利器、金属容器（釜、壺）、耳飾、玉類、釧、硬質土器（長頸壺、三耳壺、高杯、蓋杯）、軟質壺	6世紀前半
慶北慶州市 皇南里151号墳 （積石槨）	イモガイ辻金具5	積石木槨墓？	鉄刀、馬具、耳飾、硬質土器（高杯、短頸壺、長頸壺）	6世紀前半
慶北慶州市 皇南里古墳	振文鏡1	積石木槨墓？	不明	4世紀末～5世紀前半
慶北慶州市 味鄒王陵第7地区4号墳	イモガイ辻金具4	竪穴式石槨墓	馬具類（轡、杏葉）、硬質土器（高杯、短頸壺、有台長頸壺、長胴甕）、軟質土器（把手付有蓋盃、有蓋盃、甌）	6世紀前半？
慶北慶州市 鷄林路14号墳	イモガイ辻金具1	竪穴式石槨墓	嵌玉金装短剣、環頭大刀、馬具類（鞍、鐙、杏葉）、銅盒、勾玉、耳飾、土器類	6世紀
慶北慶州市 月城路ka-29号墳	緑色凝灰岩製石釧1	木槨墓？	鉄大刀、鉄矛、鉄鏃、短甲片、小札、鑄造鉄斧、鉄鋌、鍬、水晶勾玉、管玉、瑪瑙切小玉、ガラス小玉、硬質土器（短頸壺、台付壺、大壺、炉形土器）	4世紀後半
慶北慶州市 月城路ka-31号墳	土師器？（小型甕、小型器台、高杯）	木槨墓？	硬質土器（大壺、有蓋大壺、コップ形土器）、瓦質土器（コップ形土器）、軟質土器（小型台付甕）、土製漁網錘	4世紀前半
慶北慶山市 林堂洞・造永E I-1号墳 （主槨封土）	ギンタカハマ魚形装飾品1	木槨墓	環頭大刀、鉄刀、鉄矛、鉄鏃、盛矢具、鉄斧、鉄刀子、有刺利器、金銅冠飾、金耳飾、頸飾、銀鈎帶、高杯、長頸壺、台付盃、蓋杯、短頸壺、筒形器台、把杯、軟質鉢、長卵形甕	5世紀後半
伝・慶北慶山市 林堂洞	珠文鏡1	不明	不明	5世紀
慶北高霊郡 池山洞45号墳1号石室	仿製鏡片1	竪穴式石槨墓	三葉文環頭大刀、鉄矛、鉄鏃、挂甲、馬具類（鞍、鐙、轡、杏葉）、鉄鎌、鉄刀子、鉄釘、鍬、金銅冠装飾、耳飾、瑪瑙切小玉、瑪瑙小玉、金銅空玉、土製紡錘車、織物片、硬質土器（有蓋高杯、有蓋中頸壺、有蓋短頸壺、有台把手付壺、器台）	6世紀前半
慶北高霊郡 池山洞44号墳主石室	ヤコウガイ容器1	竪穴式石槨墓	鉄刀、鉄鏃、鉄矛、馬具類（轡、鐙、鞍、杏葉）、鍛造鉄斧、鉄刀子、釘、鍬、腰佩砥石、青銅盒、天河石管玉、ガラス小玉、琥珀玉、勾玉、硬質土器（有台把手付杯、蓋杯、把手付壺、高杯、小壺、長頸壺、甌）	5世紀後半
釜山市 福泉洞10号墳（東亜大）	土師器？1（小型器台）	木槨墓？	有台短頸壺、短頸壺、筒形器台、高杯、鉢形器台	4世紀前半
釜山市 福泉洞38号墳 （主槨）	筒形銅器2	木槨墓	環頭大刀、大刀、鉄剣、鉄矛、鉄鏃、轡、胄、短甲、小札、鉄斧、鉄鎌、鉄刀子、有刺利器、鉄鋌、鍬、瓦質短頸壺、炉形土器、軟質盃	4世紀初頭
釜山市 福泉洞60号墳 （主槨）	筒形銅器3	木槨墓	環頭大刀、鉄矛、鉄鏃、鍛造鉄斧、鉄鎌、鉄刀子、鉄タビ、石斧、有刺利器、鉄環、鍬、硬質土器（高杯、炉形器台、筒形器台、短頸壺）、瓦質土器（高杯、短頸壺）、軟質土器（壺）	4世紀中葉
釜山市 福泉洞64号墳	筒形銅器2	木槨墓	環頭大刀、鉄刀、鉄矛、鉄石突、鉄鏃、短甲、鉄斧、鉄タビ、鉄刀子、鍬、勾玉、壺、炉形器台、高杯	4世紀
釜山市 福泉洞71号墳 （主槨）	筒形銅器2	木槨墓	環頭大刀、鉄矛、鉄鏃、轡、頸甲、鉄鎧、鉄刀子、鉄鎌、鉄斧、鉄鑿、有刺利器、鉄鋌、鍬、器台、大壺、壺、炉形器台、高杯、広口小壺	4世紀後葉
釜山市 東萊貝塚Fピット8・10層	土師器（甕、山陰系二重口縁壺）	貝塚		4世紀
釜山市 杜邱洞林石5号墳	イモガイ？辻金具7 イモガイ？雲珠1	横口式石室墓	馬具類（轡、杏葉）、鉄刀子、鉄鋌、鍬、耳飾、硬質土器（高杯、台付盃、台付長頸壺）、瓦質土器（高杯、把手付短頸壺、短頸壺）	6世紀前半
慶南昌原市 三東洞18号甕棺墓	内行花文鏡1	甕棺墓	鉄刀子	4世紀

慶南昌原市 三東洞2号石棺墓	銅鍍2	石棺墓	鉄鍍、鍛造鉄斧、鉄鎌、ガラス小玉、軟質平底短頸壺、瓦質短頸壺、硬質短頸壺	4世紀
慶南昌原市 加音丁洞貝塚	イモガイ1（素材）	貝塚		3～4世紀
慶南馬山市 泉洞8号墳	土師器（布留式系高杯）1	土壇墓	鉄刀子、硬質土器（短頸壺）	4世紀後半～5世紀前半
慶南晋州市内古墳	獣形鏡？1	不明	不明	5世紀後半～6世紀前半
慶南晋州市	子持勾玉1	不明	不明	5世紀？
慶南鎮海市 龍院23号土壇	土師器1（高杯）	土壇	硬質把手付杯	4世紀？
慶南鎮海市 龍院第5ピット第2層	土師器1（高杯片）	貝塚		4世紀
慶南鎮海市 龍院第9ピット混土具層	土師器1（高杯）	貝塚		4世紀後半
伝・慶南金海市 良洞里	筒形銅器16	不明	不明	不明
慶南金海市 良洞里303号墳（東義大）	碧玉製紡錘車形石製品1	未報告	未報告	未報告
慶南金海市 良洞里304号墳（東義大）（主槨）	筒形銅器2	石槨墓	環頭大刀、鉄矛、鉄鍬、鉄斧、有刺利器、鉄釘、鍬、勾玉、小玉、硬質有蓋高杯、硬質高杯、硬質蓋、硬質短頸壺、硬質有蓋台付壺、硬質筒形器台、硬質炉形土器	4世紀
慶南金海市 良洞里304号墳（副槨）	筒形銅器2	木槨墓	鉄斧、鉄鎌、轡、硬質短頸壺、硬質小壺付脚杯、硬質蓋、硬質小形丸底広口壺、硬質小形器台、硬質炉形土器	
慶南金海市 良洞里331号墳（東義大）	筒形銅器4	未報告	未報告	未報告
慶南金海市 良洞里441号墳（東義大）（主槨）	仿製方格規矩鏡1	木槨墓	鉄劍、鉄鍬、鉄鎌、鉄斧、鉄刀子、切子玉、瓦質炉形土器、硬質短頸壺、硬質有蓋壺	4世紀前半
慶南金海市 良洞里443・447号墳（東義大）	筒形銅器5	木槨墓	未報告	3世紀～4世紀
慶南金海市 大成洞1号墳（主槨）	筒形銅器8	木槨墓	鉄小刀、鉄矛、鉄槍、鉄鍬、鉄斧、鉄鎌、鉄刀子、鑿形鉄斧、U字形鋤先、鉄鋌、鉸具、杏葉、鍬、馬冑、鞍橋、鍬、鉄楔、青銅環、ガラス小玉、硬質高杯、硬質有蓋高杯、硬質広口小壺、硬質小形器台、硬質有蓋台付把手付壺、硬質短頸壺、硬質鉢形器台、軟質器台、軟質甕、馬骨	5世紀前半
慶南金海市 大成洞2号墳	筒形銅器2 巴形銅器1 緑色凝灰岩製石鍬3	木槨墓	鉄矛、鉄槍、鉄石突、三枝槍、鉄鍬、鉄曲刀子、鉄斧、鉄鎌、鉄鑿、冑、短甲、頸甲、轡、鉄鋌、漢鏡片、骨鍬、瑪瑙玉、雲珠形銅器、豚骨	4世紀第4四半期
慶南金海市 大成洞11号墳	筒形銅器1 （上部攪乱層より出土）	木槨墓	鉄矛、鉄鍬、冑、挂甲、轡、馬甲、鉄刀子、鍬、楔、虎形帶鉤、鉄環、轡、ガラス小玉、硬質蓋、硬質有蓋高杯、硬質小形器台、硬質台付把手付盃、硬質鉢形器台、硬質筒形器台	5世紀前半
慶南金海市 大成洞13号墳（主槨）	巴形銅器6 緑色凝灰岩製鍬形石製品15	木槨墓	鉄刀、鉄劍、鉄槍、鉄鍬、鉄斧、鉄刀子、鉄曲刀子、ガラス小玉、蠟石製異形石製品、硬質短頸壺、硬質両耳付短頸壺、硬質炉形器台	4世紀第2四半期
慶南金海市 大成洞15号墳	筒形銅器1	木槨墓	鉄鍬、鉄鑿、硬質短頸壺、硬質炉形器台	4世紀前半
慶南金海市 大成洞18号墳	筒形銅器2 緑色凝灰岩製紡錘車形石製品1	木槨墓	環頭大刀、鉄矛、鉄槍、鉄鍬、冑、鉄斧、鉄鎌、鉄鑿、鉄刀子、鉄鋌、翡翠製勾玉、碧玉製管玉、硬質短頸壺、硬質両耳付短頸壺、硬質四耳付壺、硬質直口壺、硬質炉形土器、硬質炉形器台	4世紀第1四半期
慶南金海市 大成洞23号墳	巴形銅器片1	木槨墓	鉄製短劍、環頭大刀、鉄曲刀、鉄矛、鉄槍、鉄鍬、挂甲、鉄刀子、鉄鋌、鍬、方格規矩四神鏡、碧玉製管玉、硬質高杯、硬質広口小壺、硬質短頸壺、硬質大壺、硬質炉形器台	4世紀第3四半期

慶南金海市 大成洞39号墳 (主柳)	筒形銅器2	木槨墓	鉄大刀、鉄剣、鉄矛、鉄鏃、短甲、冑、頸甲、腰甲、鉄斧、鉄鎌、鉄刀子、鉄鈇、鋌、楔、ガラス小玉、碧玉製勾玉、硬質高杯、硬質有蓋台付壺、硬質短頸壺、硬質炉形器台、硬質筒形器台	4世紀第4 半期
慶南金海市 大成洞46号墳	緑色凝灰岩製玉杖 1	木槨墓	鉄鏃、鉄斧、ガラス小玉、硬質短頸壺、硬質炉形 土器	3世紀後半
慶南金海市 府院洞A地区G2 ビット第V層	土師器 (二重口緑 壺)	貝塚		4世紀
慶南金海市 水佳里V地区貝塚	土師器 (山陰系二 重口緑壺) 1	貝塚		4世紀?
慶南金海市 礼安里77号墳	イモガイ貝符1	木槨墓	鉄矛、鉄鏃、鍛造鉄斧、鉄鎌、鉄刀子、瑪瑙玉、 硬質土器 (長頸壺、コップ形土器、広口壺、短頸 壺、器台)、瓦質土器 (短頸壺、器台)、軟質 甕、土球	4世紀中葉
伝・慶南金海	筒形銅器5	不明	不明	4~5世紀
慶南梁山市 夫婦塚	硬玉製勾玉3	横穴式石室	環頭大刀、大刀、弓、鉄鏃、馬具 (鞍、轡、鐙、 馬鐸、杏葉、雲珠、蛇行状鉄器)、鉄刀子、鉄 鈇、金銅冠、冠帽、耳飾、頸飾、釧、腕玉、指 輪、帯金具、腰佩、金銅飾履、硬質土器 (長頸 壺、台付長頸壺、鉢形器台、筒形器台、高杯、有 台把手付盃)、軟質土器 (有蓋小型甕、有蓋有台 皿、有蓋皿)、鉄釜	5世紀後半
慶南梁山市内古墳	七乳鏡1	不明	不明	5世紀後半~ 6世紀前半
伝・慶南宜寧	須恵器甕1	不明	不明	5世紀後半
慶南咸安郡 末伊山34号墳	直弧文鹿角刀装具 1	竪穴式石槨	鉄刀、鉄矛、鉄鏃、挂甲、馬具 (鞍、杏葉)、鉄 刀子、鉄斧、鉄鎌、鉄釘、鉄鉤金具、鋌、ガラス 小玉、硬質土器 (高杯、長頸壺、コップ形土器、 脚付壺、大壺、大甕、把手付有台皿、筒形器台、 車輪付土器、水鳥形土器)、漆器片	5世紀中葉
慶南咸安郡 沙道里	筒形銅器1	不明	土器	5世紀前半
慶南昌寧郡 校洞11号墳	イモガイ辻金具4 イモガイ雲珠1	横穴式石室	有銘円頭大刀、環頭大刀、鉄矛、馬具類 (轡、杏 葉、鞍)、鎧、冠帽、鈐帶、玉類、釧、耳環、銅 鈴、金属容器 (鐺斗、釜、甕)、土器類	6世紀前半?
慶南昌寧郡 校洞89号墳	直弧文鹿角装鉄剣 1	横穴式石室	三葉文環頭大刀、鉄矛、鉄鎌、鑄造鉄斧、環頭鉄 刀子、馬鐸、耳飾、冠金具、ガラストンボ玉、銀 帯金具、銀腰佩金具、硬質土器 (有蓋高杯、長頸 壺)	5世紀後半
慶南固城郡 松鶴洞1B-1号墳	イモガイ辻金具 須恵器 (蓋杯、 甕)	横穴式石室	鉄鏃、馬具類 (轡、雲珠)、鉄斧、鉄鎌、鋌、玉 類、硬質土器 (有台長頸壺、大壺、甕、蓋杯)	6世紀前半
慶南山清郡 丹城	イモガイ雲珠6	不明	不明	6世紀
慶南陝川郡 鳳溪里20号墳	須恵器 (無蓋高 杯) 1	竪穴式石槨	鉄剣、鉄矛、鉄鏃、鍛造鉄斧、鉄鎌、硬質土器 (長頸壺、有蓋高杯)	5世紀後半

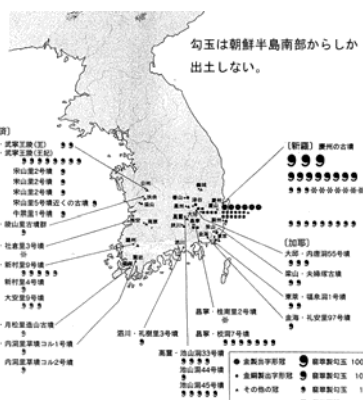
注

*倭との関係が指摘されている遺物を集成したものであり、必ずしもすべてが倭の製品であるとは限らない。

*出土地が明らかになっている遺物のみを掲載し、出土地不明のものは除外した。

*倭からの搬入品、あるいはその可能性が指摘されているものを掲載し、土師器系軟質土器など、倭製品を模倣して韓
国で製作された遺物は除外した。

*貝塚や包含層から出土している場合の共伴遺物は省略した。



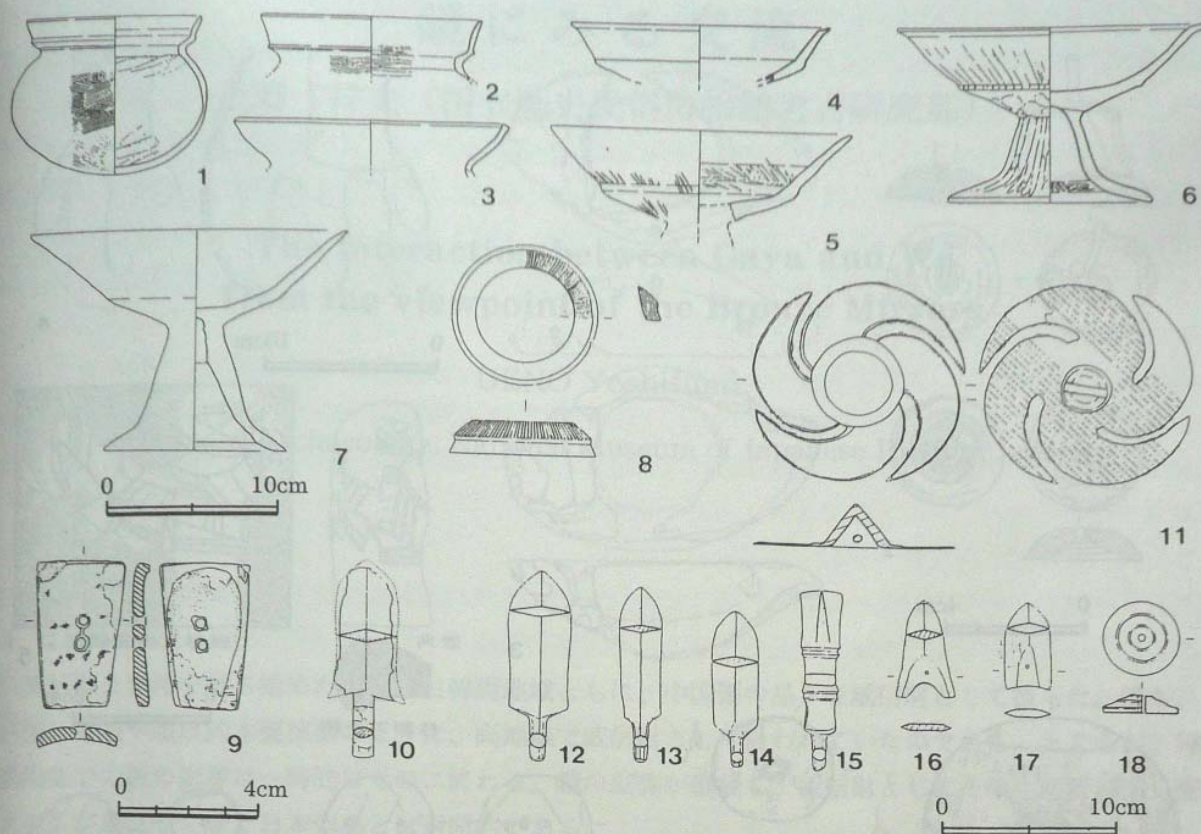


図1 4世紀～5世紀前半の韓国出土倭系遺物

1～7：土師器、8：石鉏、9：イモガイ製貝符、10：銅鏃、11：巴形銅器、12～17：鏃形石製品、18：紡錘車形石製品（1～3：東萊貝塚、4～6：龍院遺跡、7：渠洞 8 号墳、8：月城路 ka-29 号墳、9：礼安里 77 号墳、10：三東洞 2 号石棺墓、11～17：大成洞 13 号墳、18：大成洞 18 号墳）

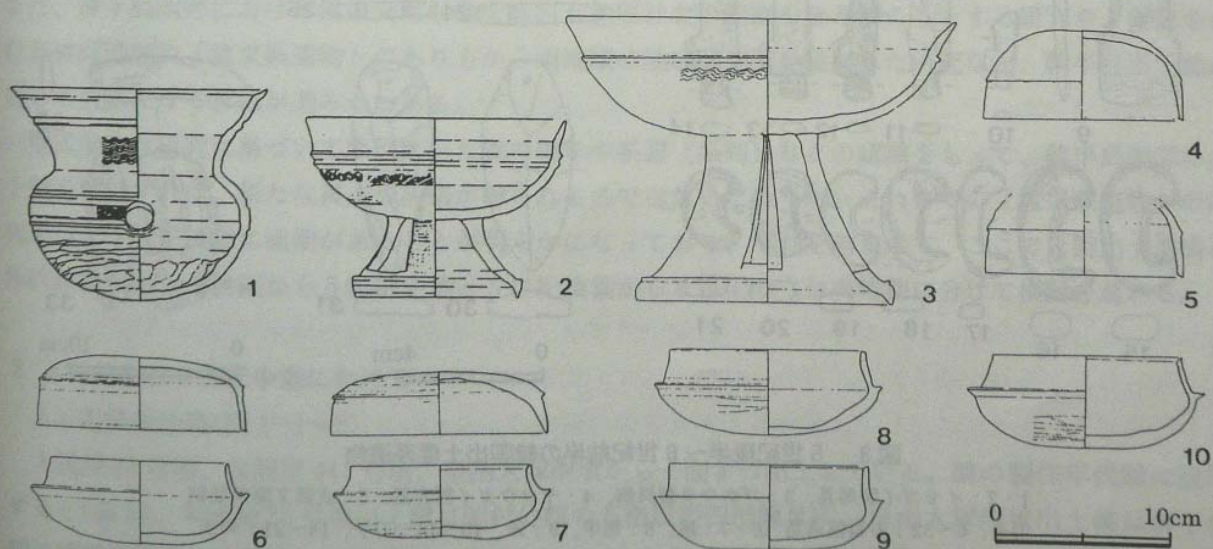


図2 韓国出土の須恵器

1：伝・宜寧出土品、2：鳳溪里 20 号墳、3～5：竹幕洞遺跡、6～9：新鳳洞 90B-1 号墳、10：新鳳洞 90A-32 号墳

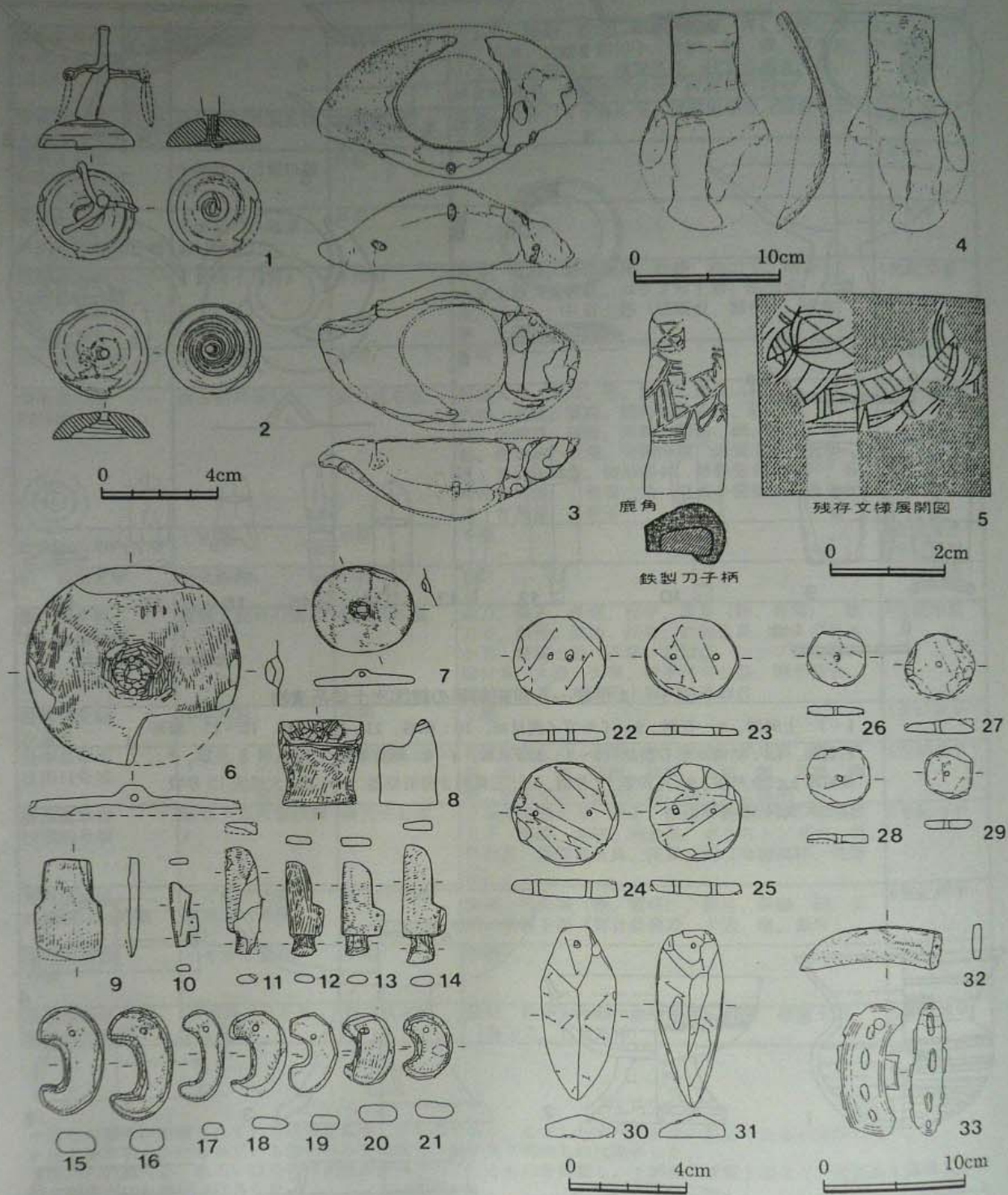


図3 5世紀後半～6世紀前半の韓国出土倭系遺物

1・2: イモガイ製馬具、3: ゴホウラ製貝銅、4: ヤコウガイ製容器、5: 直弧文鹿角装鉄
 刀子、6～32: 石製模造品 (6・7: 鏡、8: 短甲、9: 斧、10～14: 刀子、15～21: 勾玉、
 22～29: 有孔円盤、30・31: 劍、32: 鎌)、33: 滑石製子持勾玉 (1: 皇南大塚南墳、2:
 金冠塚、3: 造山古墳、4: 池山洞 44 号墳、5: 大安里 9 号墳庚棺、6～32: 竹幕洞遺跡、
 33: 軍守里出土品)